

立地適正化×都市可視化

～もしかして、まちの未来が可視化？～



三重県 鈴鹿市 都市整備部 都市計画課

1.立地適正化計画×都市構造可視化

立地適正化計画に資する都市構造可視化



- ・ 鈴鹿市では、本年度から立地適正化計画の策定に着手し、現在は基礎調査の段階。
- ・ 基礎データの「見える化」のため、都市構造可視化を活用した。
- ・ 庁内での現状認識の共有に効果を確認

「今のまち」と「これからのまち」を直感的に捉えるため、都市構造可視化・3D可視化に取り組んだ。

R 7

R 8

R 9

立地適正化計画
策定スケジュール

基礎調査

誘導区域
検討

計画策定

2.都市の現状・課題×可視化

居住・交通・防災の現状と課題を可視化

都市の将来像を検討するにあたり、現状と課題を重ねて把握できる形で整理する必要があった。
そこで都市構造の3D可視化を実施した。

居住

現況／将来推計

交通

公共交通利用圏

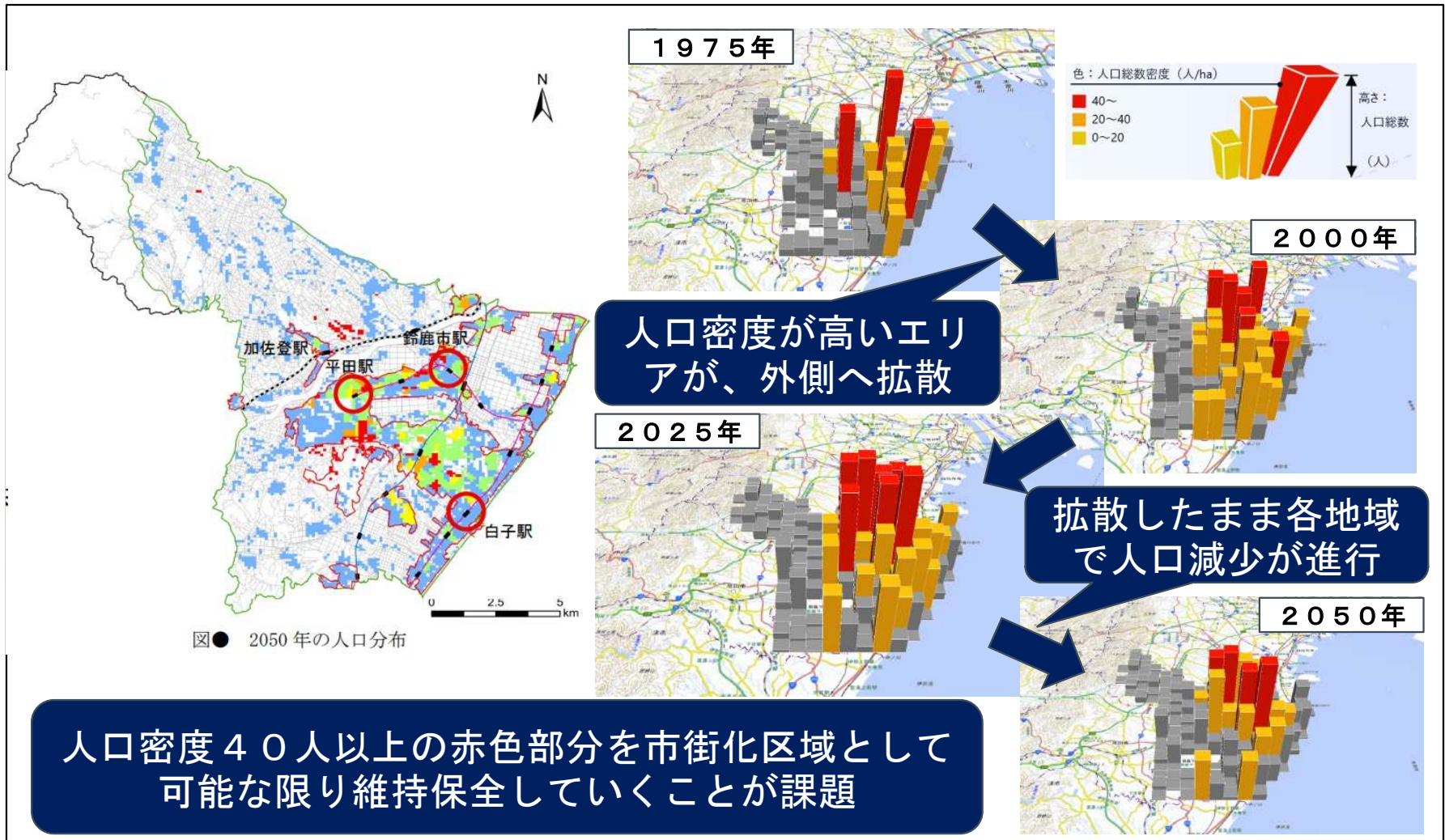
防災

津波浸水想定

すべてのデータを可視化するのではなく
「判断に必要なもの」に絞って戦略的に可視化した。

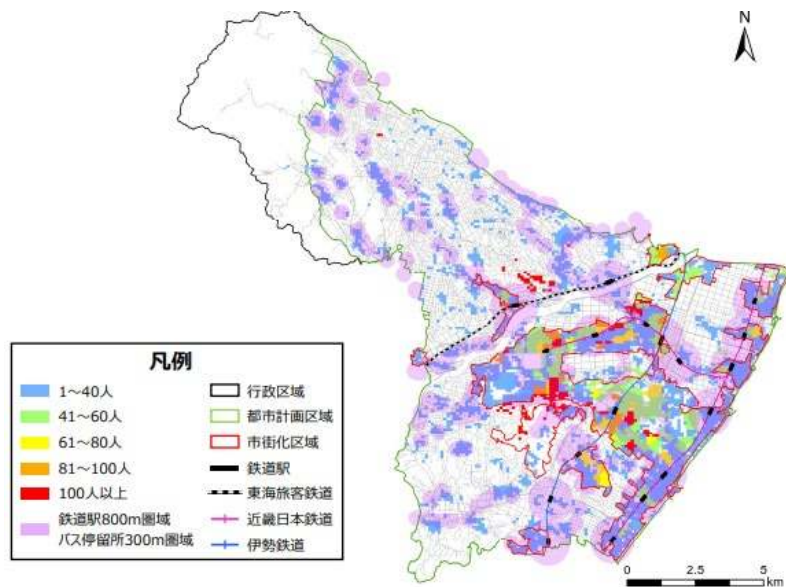
3. 居住×可視化

居住分布の現状と将来推計を3Dで可視化

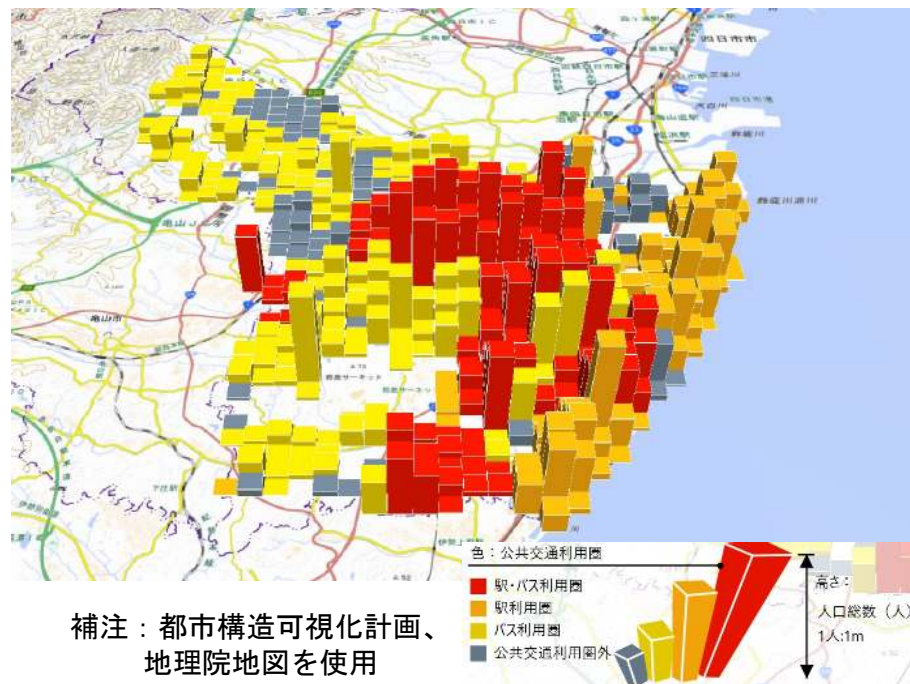


4.交通×可視化

公共交通利用圏と人口分布を可視化



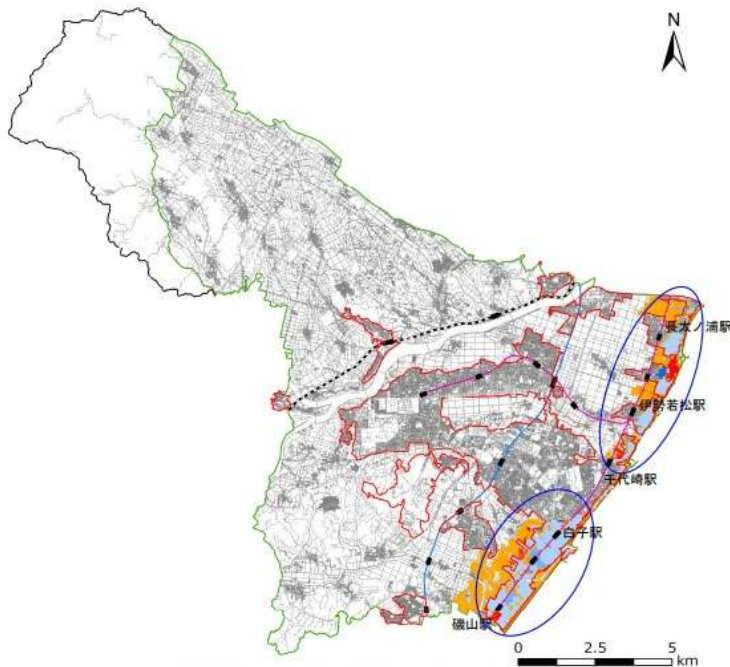
図● 公共交通の利用圏域と 2050 年の人口分布



- ・ 人口分布は概ね公共交通利用圏と重なっている。
- ・ 鈴鹿市は自動車依存度が高く、交通利便性の低いエリアにも居住が拡散
- ・ 今後は、公共交通と居住誘導を一体的に整理することが課題

5.防災×可視化

津波浸水リスクを3Dで確認



図● 津波浸水想定区域内の2050年人口分布



補注：都市構造可視化計画、
地図はImage©2025Aribus/Image©2025TerraMetrics、
Google Earthを使用

- ・ 浸水想定を可視化により具体的に把握できる
- ・ 防災指針の策定にあたっては、関係部局と十分な調整を行いながら検討を進める必要がある

6.まとめ

都市構造可視化の効果と課題

【効果】

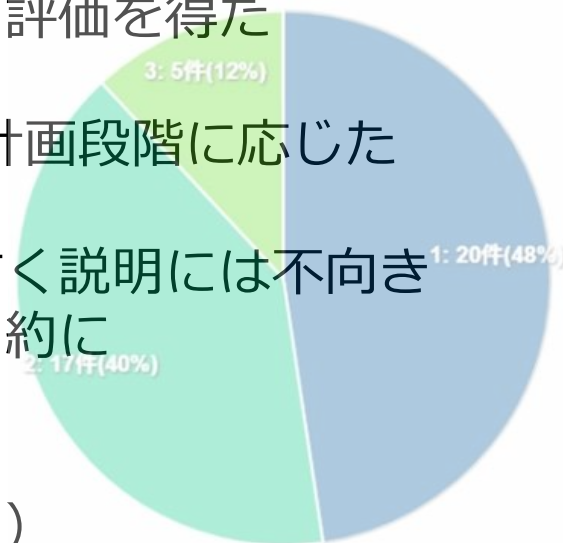
- ・ 居住、交通、防災をそれぞれ1枚の3D空間で統合的に把握
- ・ 立地適正化計画の庁内説明で高い理解と評価を得た

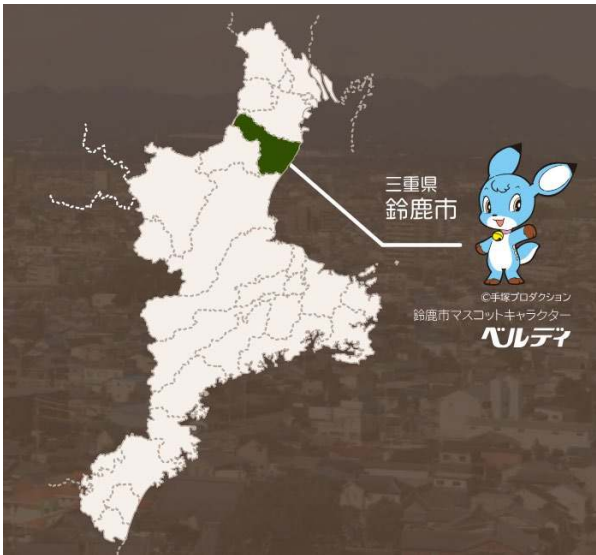
【課題】

- ・ 津波3Dは直感的に理解しやすい一方、計画段階に応じた情報整理と提示が求められる
- ・ 細かすぎるメッシュは異常値を拾いやすく説明には不向き
- ・ 学校区など非オープンデータが分析の制約に

【今後の期待・展望】

- ・ 判断に直結するデータに絞った可視化
- ・ 表現レベルの使い分け（庁内用・地元用）
- ・ オープンデータ化の推進による都市計画DXの加速
- ・ 都市構造可視化は立地適正化計画の精度向上と説明責任の強化に不可欠なツールとなる
- ・ 「もしかして、まちの未来が可視化？」と感じられる段階へ発展させていきたい





さあ、きつともつと鈴鹿。
海あり、山あり、匠の技あり